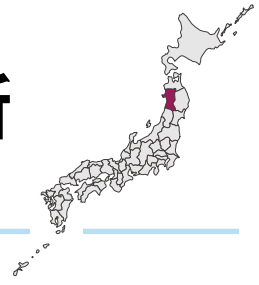


全国漁業信用基金協会 秋田支所



1 秋田県の紹介

秋田県は東北地方の北西に位置し、面積は11,638km²と全国で6番目の広さです。青森へまたがる白神山地や南北に連なる奥羽山脈から河川を通じ日本海へ栄養分を運び、豊かな自然を育んでいます。雪国らしく夏が短く冬が長いという特徴がありますが、四季折々の変化を至る所で感じることができ、日本一の深さを誇り（水深423.4メートル）湖面の透き通った青さが美しい田沢湖や、湯けむりと溪谷とのコントラストが見事な小安峡（冬期は閉鎖）などが人気で、小安峡は温泉地でもあるため、湯治を兼ねて観光される方も多くいらっしゃいます。



田沢湖（県観光連盟提供）



小安峡（県観光連盟提供）

祭りにも力を入れており、東北3大祭りである竿燈まつりは、高さ12m、重さ50kgの巨大な竿燈を体1点のみで支えながら街を練り歩きます。夏の夜に280本もの竿燈の明かりが大通りを照らすさまは迫力満点です。



秋田竿燈まつり
（県観光連盟提供）

なまはげ柴灯まつり
（県観光連盟提供）

冬にはなまはげ^{せど}柴灯まつり。幻想的な風景の中なまはげ達が勇壮な舞を披露する姿を見てなまはげ行事も体感できます。

自然、祭りと来て、最後は食べ物です。

「これが無いと正月を迎えられない」と言われる魚 ハタハタ。秋田に来るときは産卵期に当たるため、その卵「ブリコ」と共に愛されています。塩焼き、ハタハタ寿司、ハタハタの魚醤を使ったしょっつる鍋がおすす^{ひない}めです。また、お米でできたきりたんぼ^{ひない}と比内地鶏で作ったきりたんぼ鍋は、県を代表する郷土料理の一つで、新米の時期は特に美味しいです。最近ではいぶりがっこ（^{いぶ}燻した大根の漬物）とチーズを組み合わせた「いぶりがっこチーズ」もおつまみとして大人気。県産の日本酒ともよく合います。



ハタハタ（県観光連盟提供）



きりたんぼ鍋（県観光連盟提供）



いぶりがっこ（県観光連盟提供）

このようなわが秋田県ですが、是非一度ご体感していただければと思います。

2 秋田県の水産業

秋田県は日本海に面し、海岸線の総延長は264.2kmです。冬期風浪が厳しいことに加え、影響を受けにくい内湾等の養殖適地も少ないことから、漁船漁業が主流であり、うち90%以上が10t未満の漁船で占める、沿岸漁業の比率が極めて高い漁業構造となっています。現在の漁業経営体数は、高齢化や後継者不足の影響を受け630経営体とピーク時の半数以下にまで減少しており、漁獲量については、マダラ、カニ類、ブリ類、サケ類、そして最重要魚種であるハタハタが漁獲量の半数を占める主要魚種となりましたが、ハタハタの漁獲量はここ数年で激減し、令和元年の783tに対して令和4年は約4分の1の196tでした。全体の漁獲量は緩やかな減少ではあるものの、これまで冬の季節ハタハタ漁を主体としてきた漁業者たちにとって大変厳しい数字です。

この状況を改善するため、秋田県では、新規就業者の獲得に向け、「あきた漁業スクール」を設置し、漁業の情報発信とともに未経験者への漁業研修を行っています。また、「つくり育てる漁業の推進」として、底曳網や定置網の目合いの拡大や、本県がハタハタの産卵地となっていることから魚卵の孵化放流を行う等の資源管理に努め、漁業生産の安定化のため栽培漁業（人工種苗の栽培、放流）にも積極的に取り組んでいます。

3 秋田支所の概要（令和6年9月末現在）

- 住所：秋田市山王三丁目8-15
秋田県水産会館3階
- 電話：018-823-7362
- 理事：藤嶋 茂

4 秋田支所の取り組み

わが県の水産業を取り巻く環境は厳しい状況が続く、保証残高も年々減少しています。悪天候による出漁日数減少や燃油高等の影響で資金繰りが難しく、長期運転資金の比重が大きい傾向にあります。操業向



あきた漁業スクール研修チラシ
(県水産漁港課提供)

さらに、効率的な操業を図るため、スマート漁業（デジタル機器による流通業者への情報開示や海況予測技術の開発等）の導入にも力を入れています。

漁業者も、直売所の活用やオンライン販売等の販路を拡大するとともに、難しいとされてきた蓄養殖に取り組んでおり、中でも岩館漁港のサーモン養殖については「輝サーモン」のブランド名で主に県内で販売され、今年3季目を迎えました。

こうした取り組みにより、水産業の持続的な発展を目指しています。



輝サーモン（県水産漁港課提供）

- 運営委員長：山本 健藏
- 出資金残高：341,600千円
- 保証残高：242,784千円
- 役職員数：3名

上のための漁船購入資金等の需要も見られ、漁業信用保証の重要性を改めて実感しているところです。関係機関との連携をより密にしながら、漁業者の資金ニーズをくみ取り、今後も支援に努めてまいります。